

発行 中山かんのん

恩 林 寺

中山中学下、電話三四一一二四五

おでら
正に行こう。
おしようさんと
ともだち
友達になろう。



冥福・冥利・他生の縁

「冥」という字は暗いとか、遠い、あるいは目に見えないものを指す字で、宗教的には、神仏の作用とかあの世（冥土）のご先祖様についての語です。したがつて『冥福』とはあの世の幸福を言い、「冥利」とは冥加プラス利益のこと。つまり、知らぬ間に神仏や先祖から授かるこの世の幸福のことですね。この世からあの世の者に幸福を送ることが、冥福を祈ることであり、あの世からこの世のものに幸福を与えることが冥利となります。

私たちがもし冥利を願うなら、まず、冥福を祈らなければなりません。すでに男冥利（女冥利）や商売冥利に尽きている人は、この、目には見えない御加護をいただいているのですから感謝の気持ちを忘れないようしなければなりません。

ところで仏教では時間的、空間的にスケールの大きい考え方をし、私たちが住んでいるこの娑婆世界のほかに三千大千世界があると教えます。一口にあの世と言つてもずいぶんたくさんあるんですね。

八十年の人間界の寿命など吹けば飛ぶような短さで、この広がりを何とかするには何度も何度も生まれ変わりをしなければとてもダメです。お釈迦様は八千回生まれ変わられたというですから私たち凡人は何万回。何億回も生まれ変わり、生きかえらねば仏に到達できないかもわかりません。このように他のたくさん生を重ねて修行していくから多少といい、その間にいただいたご縁を多少の縁といいます。袖振り合うも多少の縁』といいますね。この世で袖が振れ合うほどにお近くいただけるのは他生でそれなりのご縁があつたからだ。と考えてはいかがでしょうか？

次々と巡つてくる生死流転の間に、又、どのような間柄になるかもわからぬおたがいです。どうかよい因縁そだてをおきましょう。

秋の彼岸会。祠堂『永代経』法要のお知らせ。

『法要のあと懇親会を予定しております』ぜひおまいりください。

九月二十一日（土曜日）午前十一時
会場 恩林寺本堂